

看護小規模多機能型居宅介護ナースイン花びりか

症例概要 利用者：男性 90代 要介護5

病名：アルツハイマー型認知症、不眠症、便秘症、腰椎圧迫骨折、
右慢性硬膜下血腫（R3.12手術）

経過：鉄道職員として働き、夜学で高校、大学へ。7人兄弟の長男として家計を支え、結婚後も兄弟の世話をしていた。長男を儲け、長男が家を出てからは夫婦2人でT市で生活するも70代で2人とも認知症を発症。2人での生活が難しくなりH29.9月サービス高齢者住宅花びりかに入居され、同日ナースイン利用開始となる。当初2人で入居するはずが、妻が他界され、不穏状態等が強く、連日、長時間デイサービスを利用。令和元年7月中旬頃より誤嚥性肺炎を発症し体調悪化、歩行困難となり、ほぼ全介助レベルになる。ナースインでお看取りの希望があり緩和ケアを導入。終末期ケアとして社会参加に着目しご本人が好きな「和太鼓」の演奏をきっかけに生命力を取りもどし自力歩行が可能となった事例。

内 容

令和元年7月頃より発熱。身体の傾きが強く、くすみ足、小刻み歩行となり、ふらつきが見られ、食欲低下となる。

主治医からはアルツハイマー型認知症の進行にて、誤嚥性肺炎を併発されており生命の危機であるとの見解があった。座位保持困難で全介助レベルまで低下。食事の介助をするが、むせ込み強く、窒息のリスクがあり服薬も飲めず中止となる。

今後、状態が衰弱する可能性がある旨を医師からご家族へ説明があり、胃ろうやIVHの造設等の希望はしないとの事で、看護多機能ナースインでの泊り24時間サービスに切り替えて緩和ケアを提供することになった。

終末期カンファレンスを開き、花びりかの管理栄養士や主治医、看護、介護福祉士が情報共有を行い、QOL向上に視点をおき絶食ではなく、嗜好面を考慮しながら有形食にもチャレンジした。ムセ込みはあるが、誤嚥なく少しづつ摂取可能となり、次第に食事量も増えて食事は自立となった。

ご本人の音楽好きを把握していた担当ケアはナースイン夏まつりの中で和太鼓の演奏に合わせて手拍子をとる姿をみて、和太鼓演奏を練習していただき、社会参加として秋祭りで和太鼓演奏会ができる

ように練習を重ねた。座位が不安定でリクライニング車椅子を使用していたが、和太鼓が生活リハビリとなり、通常のひじ掛け椅子で座位保持が可能になるまで改善された。和太鼓を演奏することで更に体力が付き、付き添い歩行ができるようになり現在はベッド上での排泄から脱することができトイレでの排泄に成功している。ご本人からも「和太鼓は楽しい。生きがいだ。」と笑顔で話され意欲向上された。

24時間ナースインの全身管理体制から、サービス付高齢者住宅花びりかで過ごすことができるようになり在宅群復帰が叶い自分らしい生活を取り戻すことができた貴重な事例です。